

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2472500244
法人名	社会福祉法人 むつみ福祉会
事業所名	グループホーム むつみ園あゆみ園
所在地 (電話番号)	松阪市嬉野町須賀町字龍王野477-8 (電話) 0598-48-0800
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 20 年 8 月 28 日(木)

【情報提供票より】 (H20年8月7日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14 年 11 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 12人, 非常勤 6人, 常勤換算	16.4人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨平屋 造り
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	6,000 円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 500 円
	夕食	500 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(8 月 7 日現在)

利用者人数	17 名	男性 6 名	女性 11 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名
要介護3	2 名	要介護4	5 名
要介護5	2 名	要支援2	名
年齢	平均 84 歳	最低 74 歳	最高 95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	うれしの太田クリニック 林歯科医院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設6年と理事長の介護への熱き思いがみられる事業所である。職員の笑顔が多くみられ利用者の落ち着いた状態にもつながっている。近隣には住宅も多くなり地域住民にも事業所の存在を理解されている。事業所周辺には生り物(果物)が植えられ利用者が季節を感じる事が出来る環境である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員を育てる取り組みにおいて、研修担当者を決め計画を立てて研修に出席している。その他の改善課題についても前回の評価を受けとめサービスの向上につなげられている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価について理解し、カンファレンスで一部の職員の意見交換は行なわれているが、意識改革の意味でも、自己評価を全員で取り込まれる事を期待する。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は行政、地域住民の参加のもと、2ヶ月に1回開催されている。地域との交流は活発に行われていて、話し合いの結果を生かした取り組みがされている。</p>
重点項目 ③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の訪問時に健康状態や事業所での暮らしぶりについて詳細な報告がされ、サービスの向上につなげている。外部への苦情相談窓口も重要事項説明書に記載されている。</p>
重点項目 ④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>事業所周辺を散歩し、日常住民と挨拶を行うことで地域とのつながりを大切にしている。野菜・切り花などおすそ分けもあり、親子で遊びに来る住民もいて、地域住民との交流も深めている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が地域の中で安心・安全な生活ができるよう医療機関の協力を得て、介護の質の向上に努める独自の理念がつけられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者・職員は理念を共有し、カンファレンス等でも管理者と職員が理念を共に意識しながら話し合い、日々の介護に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の活動に参加し、出会いを大切に、園でのふれあい祭りなど地域の人々に参加して頂き、地元の方々と交流することに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価を実施する意義については理解されている。カンファレンスでの意見交換は一部の職員での取り組みとなっている。	○	評価により改善していく気づきを得ながら具体的改善に取り組んでいくための機会として、また、初心に戻る意味でも全職員で取り組まれることが望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員、自治会長、地域住民代表、知識経験者、利用者家族代表、職員の参加により開催されている。そこでの2ヶ月に1回の運営推進会議は、意見を参考にサービスの向上に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政や地域包括支援センターには情報を交換し運営推進会議以外にも行き来するよう心掛け、行政とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会も多く、その時には健康面・事業所での暮らしぶりを話し、毎月1回それぞれ家族に向けて預かり金の収支・請求など報告し家族の確認を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付を設けている。家族の来訪時に口頭で表せる機会も設け、話されたことは検討し運営に反映させている。苦情相談窓口は重要事項説明書にも記載されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者との馴染みの関係を重視し、職員の異動がある場合、利用者への説明や対応の仕方等、職員が変わる事で利用者へのダメージを防ぐ配慮はされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修担当者を決め、計画を立て働きながらトレーニングしていくことを進めている。職員各自に応じた学びの機会の確保に取り組み、現在は男性職員がケアマネ取得を目指している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホームの連絡会に加入、参加している。相互訪問交流も行なっており、さらに、地域の同業者と交流する機会を増やし、サービスの質の向上に取り組んでいく意向である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	自宅訪問を重ね、本人が納得した上で利用できるよう、家族と相談しながら事業所に徐々に馴染めるように工夫がされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一人ひとりの意思を尊重しながら、利用者の喜怒哀楽に関心を寄せ、職員は傾聴することで生活歴などを知り、一緒に過ごし良い関係を築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いを把握され、希望など話すことが難しい利用者へ寄り添い、しぐさ・ため息からでも引き出すよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントで利用者本人の希望や、家族には面接時や電話で意向を聞き出し、定期的にカンファレンスで、ミーティングを行い介護計画を作成している。家族にみせ同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画作成後3ヶ月ごとに見直しはされている。利用者の状態変化に応じて随時話し合い、新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の都合がつかない時の通院は生活の一端として同伴され、個別の買い物をするなど柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の希望するかかりつけ医での受診、協力医療機関医に通院介助を行い、事業所と医師との関係を築きながら適切な支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方について利用者・家族・かかりつけ医・職員で共有し、方針等について話し合っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への言葉掛けには一人ひとりに傷をつけない声掛けで対応している。個人情報の取り扱いには事務所内で保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望により居室で食事をされる利用者の見守りや、居室の掃き出し窓から戸外へ出られ草取りをされる利用者にも見守りを行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ユニットで食事の献立は異なることもある。下ごしらえ、下膳など利用者と職員と一緒にいき楽しんで食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日できるようになっている。気の合った利用者が一緒に入られる時もあり、楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のできること好きなことを把握し、食事の下ごしらえなど楽しみごとへの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は利用者に散歩のコースを決めてもらっている。事業所周辺で行い、体調に合わせて遠回りをしたりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全ての職員が鍵をかけることの弊害を理解し、日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。居室の掃き出し窓にも鍵をかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進委員会に挙げ、年2回避難訓練を行っており、地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。消防署との防災協定も交わされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者各自の食事摂取量、水分摂取量の見守りをしており、バランス良く確保できるよう支援がされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間である食堂と調理場が一体となっており、調理をする職員と利用者で会話が出来、一緒に時を過ごすしている。また、利用者同士が長椅子で雑談され、くつろいだ様子がみられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具(箆笥)衣装箱が置かれ居心地よく過ごせる工夫がされている。家族から送られてきた写真なども飾られ癒される感じである。		